ついて説明しよう。

以下に各グループの研修内容に

キュラムで行った。

American Language, SAL) いねいい

などに毎週18時間が当てられた。 セントの訓練」「自信を持つ会話法」

リップを行い、UC バーク

BMアルマデン研究所、スタン

サンノゼ州立大学

立大の英語研究所

(Studies in

べての英語研修はサンノゼ

プに分けて実施した。 年は左記の3種類の

る。授業は「効果的なプレゼン」「ス ション能力の向上を目標にしてい えるように、主としてプレゼンテー

ムーズな会話のための文法」「アク

大用に特別にデザインしたカリ

このプログラムの内容

UCバークレーのDoudna研究室で

指す15名の化学系大学院生 (博士 は将来世界で活躍する研究者を目

1年のYREP

などの化学・生物系の研究室を訪

課程9人、

修士課程6人) が参加

このプログラムは、

国際学会等で

信を持って発表や質疑応答を行

した。今回で4回目の開催である

九州大学

九州大学カリフォルニアオフィス所長 松尾正人



オラクルの美しい景色を背景にALEP/SVEP学生達

ができないところ うだ。グローバル はないが、 化は引き返すこと 入り口に立つこと できなければその するには英語が出 ローバル化に対応 まで来ている。 り残されているよ の若者はそれに取 英語が わけで

世界の若者はどんどんグローバル 性さえ考えずにいるのが実情であ メリカに来ているアジアを含む チャンスが少なく、 世界は日々変化しており、 ル化は一層進んでいる。 外から日本を見て 化に対応している

感があるが、 日本

日本にいると学生達は英語を話 毎年参加者数が増え、

修に力を入れているわけである。 年に9人の参加で開始 この恒例の英語研修は、

このプログラムの特徴

同時に日本にいたのでは気が付か 現在の日本の問題点が見えてくる。 話を聞き、色々なことに遭遇すると 国外に出て多くの人々と交流し、 グラムは英語を学ぶだけではない 初めて日本の素晴らしさ、そして グラムを用意していることである。 てもらう。そのための様々なプロ を外から見るという立場を認識し 会を利用して日本を、そして自分 力を入れている2つの特徴がある。 国外に出たユニークな機 っても、

来ると考えている。こういう背景 はカリフォルニアにおける英語研 のもとにCAオフィス/国際部で ル 化を、 身をもって体験出

分自身のこと、そして自

分の

周

この研修を機会に日本のこと、

を外に向かって発信することの重 のことを自分で観察し考え、それ

Kyushu University Campus Magazine 2011.11

このプログラム

・リップを

年は71人に達した。

ついに20 このプ とに気が付くのである。 こういう実生活を現地で体験する 異文化の中で4週間を過ごすこと 外部講師を招待して講演をお願い 行って大学や企業の訪問を行い、 要性を認識してほしいと思ってい はっきり持つことが大事であるこ それよりも自分が言いたいことを ことで、英語は学ぶものではなく も起こらない である。英語を話さなければ、 している。 る。そのために、 て慣れるものであり、 い食事も我慢しなければならない。 人の家庭でホームステイを行い、 もう1つの特徴は全員アメリカ ルにすぎないことがわかる。

毎日気に入らな

意思疎通の

チェックしており、何か問題が起こ に学生に接し、問題がないか手厚く ると直ちに対応するようにしている Aオフィスのスタッフが毎日のよう このプログラム全体にわたってC

のものであるが修士学生も多少入ってい る。今年は各学部から40人が参加した。

SVEP

松尾所長の話を聞く学生達

YREP

ALEP Agri-bio Leaders English Program

シリコンバレー英語研修は、学部学生向け

Young Researchers English Program

若手研究者英語研修は、特に大学院博 士課程学生向けのものであるが、修士 課程学生も博士課程に進む条件で受け

入れている。今年は化学系の15人が参

アグリバイオリーダー英語研修は、農学 部学生が主体で学部生、修士学生を問 わない。16人が参加した。

YREP学生は何を学んだか

業による英語力向上に加え、 のイノベーションを牽引するシリ コンバレーを体感した。その結果、 参加者は毎日実践的な英語の授 世界

ジネスマンや研究者、 会を聞いて科学や技術がビジネス た。一方で、プラグ・アンド・プ 個別指導に使った時間は12人の発 持って発表できるよう指導した。 ションのメッカであるシリコンバ 義を聞くチャンスも作り、 に繋がる現場を身近に体験し ていたスター ンターを見学し、ちょうど行われ レイというインキュベー 表者に対して合計で30時間に達し 人の個別発表練習会を催し自信を ンを行った。CAオフィスではこれ ついて英語でのプレゼンテ 参加者が各自の研究内容に 訪問先の教授や研究者と交 人々の考え方を学んだ。 大学の教授陣から講話や講 トアップ会社の発表 シリコンバレーのビ ションに先立ち各 およびスタン ションセ ショ



ンティ さらに、 験することができたようである。 に必要であるかを肌で感じ、イノ な分野の幅広い知識と理解がいか ている。次頁で参加者の中から5 が全員に近い参加者より寄せられ 義なプログラムであったとの感想 つなげることの大事さを身近に体 してのマインドはどうあるべき ーションを起こしそれを事業に 明確に英語を学ぶ強いインセ ブが得られた。非常に有意 かに不可欠であるかがわ 世界で活躍するには英語 自分の研究以外の トを一部抜粋し紹介する 様 か

英語研修2011九州大学カリフォ

ルニアオフィス/国際部共催

げる。 気楽に英語を話すことができるよ 学生が、英語を話すことの壁が取れ、 かについて、これまでに集まった 何を学んだか を読まずに堂々と自信に満ちたプ 深いテーマを取り上げ、英文原稿 多くの学生が幅広い分野から興味 れに研修の成果を十分に感じ取っ よるプレゼンテー 学生達はこの研修で何を得たの いたようだ。 世界の最先端は自分の想像を超 えていたかが思い知らされた。 ここに来たことは私にとって大 ができた。 えたスピードで発展してい きな衝撃だった。 いかに自分が狭い中で世界を考 なんといってもほとんどの トからいくつかの引用を挙 **/SVEP学生は** ションを行い、それぞ トリップをする中で、 ションを行った。

スタンフォードJasper Ridgeで Dr. Cohenの説明を聞くALEP学生達

世界が広がったと 考え発言すること の大事さを感じ、

あった。 平均5点満点の4.4 は、 言う学生が多 という高い評価で 終わった時点で、 この研修の満足度 48人の集計を

が、シリコンバレ

とはどういうと

野とは全く関係ない分野であった

ついてなど、全てが興味深かった。 業の違い、半導体について、起業に ころなのか、日本とアメリカの企

うになったと言って

いる。その上、

ジニアと直接話す機会を得て、リ

ルドトリップで現場のエン

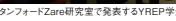
たちの講演を聞いて、

自分で

このプログラムに参加して一番変 shy. You should speak more. 感情がどこかにあったと思う。 の英語が聞き取れず"Don't be 間をこのプログラムで過ごすこと 信を持つて発言できるように 話のときでも、自分の意見を自 できるだけうまくやろうという 発言できるようになったことで と何度も言われ悔しい思いをし なったと思う。本当に充実した時 ある。これまでは失敗を恐れて、 われたと思う点は、自信をもって し、今はプレゼンのときでも会 ムステイではホストマザ

に足りないもの、またこれから 語の発音の仕方など様々なこと の研究内容のプレゼンテー とを強く思った。 未熟な発表だった。 を指導してもらったが、まだまだ 解してもらうための表現や、 ―BMで初めて英語による自分 を発言できなければならないこ る。常に自分の意見を持ち、それ た。アメリカでは沈黙が嫌われ 持って会話ができるようになっ ンをした。発表前には、相手に理 たが、慣れてくると少し余裕を ショ

のかがはつきり見えてきた。 しなければならないことが何な しかし、自分 英 あった。



スタンフォードZare研究室で発表するYREP学生

根ガーデン」を皮切りに、 フィ ルド 次いでA について

■ここに来て初めて起業はリスク

ではなくチャンスであるという

ことを鮮明に体感し、自分が日

本という小さな殻に閉じこもつ

同時に、自分も何か行動を起こ ていたことに愕然とした。また

したいと胸が高鳴った。それだけ

て述べよう。 まず、ALEPには農学部から16 LEP、SVEPについ

である。 薬学(2)、理学(学部2、院生1) 学部生36人、 よび統合新領域学府からの参加も 経済 (5)、 院生2)、医学8人で、そのほかは は各学部から40. 人の参加があり、 週間付き添った。 21世紀、教育などの学部お 法学 (4)、 人の参加があ また、SV

にわたった。SVEP

のプ

トリップは主として企業を中心と

インテル展示館、

アッ

製造の見学、

た。

それぞれ専門の教師によって毎週 「会話とヒアリング」、 ゼンの方法」、「アクセント訓練」、 のイベント」 4つのレベルに分けて行い、 4週間行われた。 の4種類の授業が、 「キャンパス

ができなかったようだが、

家族

 \mathcal{O}

ホストの言うことがわからず会話 日大学へ通った。最初はなかなか ファミリーに分かれ、そこから毎

18時間、 ランシスコの北にあるレッドウ 連するところを選び、日本庭園 とSVEPでは異なる。ALEP サ

がなくなったようだ。

だん会話ができるようになり、

後

して毎日一緒に生活すると、

だん

料理やイベント

などに参加

半になると英語を話すことに抵抗

フォー 演習農場やバイ ッド、 0) の森ミュワ 研究室、U -ビス農学 -ド大学の スタン



ヤフーで中国人エンジニアから話を聞くSVEP学生達

英語の授業は合計56人の学生を 多いのは工学10人(学部8 大学院生4人の構成 姜益俊准教授が 文学 (4)、 プレ り

装置メ

カーノベラス、そしてス

プラグ・アンド・プレイ、

半導

プルストア、 している。

ヤフー、

オラクル、

タンフォード

大学などを訪問した。

ムステイは56人が35軒の

ルドトリップは農学に関 トリップはALE 箱

に来て感じたことについて自由に

を選び、

5分程度の英語に

最終週には56人全員がア

メリ

力

自分の英語に自信が持てるよう

ショックだった。

話も聞いてくれなかったことは た。自分の意見が言えなければ

 \mathcal{O}

意見を英語で言えるように

、後半ではしっかりと自分

ゼンをするという経験は全くな なったと思う。また、人前でプレ

しかも英語でのプレゼンなど

なろう。 して、 自分で一層のレベルアップに努めて せるきっかけになったようである。 何をしなければならないかを考えさ 社会の変化をはっきりと気付かせ、 修は英語力に加えて、 に対する付き合い方を知っておく どこでも働ける広い視野と異文化 りの関連することを知らなければ を効果的に使うためにはもっと周 は絶対に必要であるが、その知識 増大している。これからは英語が 留学を考える学生も多く出てきた。 ことが何よりも求められるであろ ならない。 できないでは就職にもマイナスと 日本国内市場の縮小傾向を反映 学生の反応を見ると、 日本企業の海外志向は一層 さらに、 それに加えて、 自分の専門知識 そのような こ の 研 世界の

この研修により自分の視野は間違

なく広がり、考え方も変わった。

トリップでは、自分の分

になったと思う。

といった意味でも大きなプラス から社会人になって人前で話す とができた。このスキルは、これ て最終プレゼンをやり遂げるこ 考えられなかったが、自信を持つ

> 以前に比べてだいぶ積極的になっ 分なりの意見をまとめ、時と て主張することの大切さを身に た。また、自分で考えること、自 しみて感じた。

自分の世界観が大きく変わった。

英語は学ぶものと思っていたが、 道具にすぎないことがわかった。 自分の言いたいことを表現する

は

自分の意見が第一に尊重され いけばよかったが、アメリカで 本では誰かの意見に黙って付い の違いに戸惑うばかりだった。日 か出来なかったので、最初は日米 参加前は日本的な思考や見方



九州大学カリフォルニアオフィス 560 S. Winchester Blvd. Suite 500 San Jose, CA 95128, USA http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/ california/index.html

し

度を開始 派遣の必要性を認識し、 ジット)を含む留学生交流支援制 年から短期海外派遣(ショ 金からバス代などを一部支援して する。ロバー 直接費用だけでも一人40万円に達 最後に費用に関して述べると、SV EP/ALEP学生の個人負担は LEP学生は初めてその恩恵に 幸 大変喜んでいる。 い文部科学省もこの短期 した。今回のSVEP ト・ファン同窓会基 2 0 1 トビ

SVEP/ALEP、少人数での英語の授業

16 | Kyushu University Campus Magazine 2011.11